



## 何事も経験，かな？

昭和薬科大学衛生化学研究室の阿南と申します。東京都健康安全研究センター薬事環境科学部の鈴木 仁先生からバトンを受け取りました。鈴木 仁先生は、私の所属する研究室の小椋教授と大学時代の同期生とのことで、そのご縁から昨年、研究室の学生を連れて同センターの見学をさせていただきました。本学は6年制薬学部のみ単科大学で、学生の多くが薬剤師の資格を活かせる病院や薬局、または製薬関連企業への就職を志望していますが、こうした公的機関の見学は将来の進路を考えるうえで貴重な情報収集の場となったのではと思います。また、大学の講義や実習で学んだ衛生薬学や分析化学が、実際に人の健康や安全に貢献する現場を目の当たりにするよい機会であり、私自身にとっても、講義や実習で役立つ情報を得ることができました。今回は鈴木先生より、このエッセイ執筆の機会をいただきました。400字詰め原稿用紙5枚分、小学生の自分だったら泣いていますが、もう大人なのでここは冷静に、日々思うことや最近の出来事などを書き連ねていくことといたします。

先にも書きましたとおり、私の勤める大学では在学生全員が薬剤師国家試験合格を目指す環境にあります。学生さんは3年生の冬に研究室配属が決まるものの、4年生では諸々の実習や講義、5年生では実務実習、6年生になってからは国家試験対策と、とにかく忙しそうです。私の研究室では『生体による微量元素の制御機構の解明』を大きなテーマに掲げ、学生がそれぞれ個別の研究に取り組んでいます。研究を進めるには、実験動物や培養細胞の扱い方から様々な分析化学または分子生物学的な実験手法まで、身につけないといけない技術や知識が数多くあります。私は主にICP-MSやHPLC-ICP-MSを扱う研究について指導を担当していますが、機器の原理や取り扱い方についてどこまで細かく教えるか、いつも考えてしまいます。分析条件から自分で検討させることで、機器の特徴をじっくり理解して欲しいと思う反面、細かい内容までは国家試験に出ませんし、病院や薬局に就職すればICP-MSとかかわることもないでしょう。どういうやり方が学生にとって良いのか、また、研究室にとって良いのか、まだまだ試行錯誤の繰り返しです。

話は変わりますが、私が最近フランスのとある地方に出張した際に遭遇した、ちょっとしたトラブルについてお話ししたいと思います。出張の目的は現地の大学の研

究グループとの研究打ち合わせと簡単な分析でしたが、単独でこうした場に向かうのは初めてでしたので、出発前から緊張していました。成田からパリへ飛び、国内線に乗り換えて目的地の地方空港に到着。小規模ながら綺麗な空港で、手荷物受取所にはコンベアが2台、そこから到着ロビーへ出る自動ドア付近には空港係員と思しき女性が2名ほどいます。乗客達が自分のスーツケースをピックアップし何事もなく到着ロビーへと出て行く中、何故か私だけ係員に止められてしまいました。「英語はわかりますか？」から始まり、「パスポート見せて」「どこから来たの？」「目的は？」「何日滞在するの？」「どこに泊まるの？」等々質問が続き、決して得意ではない英語で何とか答えていたのですが、最終的に「スーツケースの中をチェックしたいからちょっと別室に来てくれ」となりました。スーツケースには実験に使う物も入れていましたので、没収されてもしたら、はるばるここまで来た意味が全くなくなってしまいます。「これは何？」「何に使うの？」という問いに、これは研究に使う物で、危ない物ではない、と一生懸命説明しました。今思い返せば全く要領を得ない且つ不審このうえない返答でしたが、熱意(?)が伝わったのか無事に解放されました。

そのときは焦るだけでしたが、あれはあれで良い経験だった、次に同じことがあったらもっと上手いこと立ち回ろう、と思います。学生の指導にしても自分の仕事にしても、上手く行かない場合や、そもそも苦手なこともあります。それを「何事も経験だ」「今回はいい勉強になった」とポジティブ思考で受け止められるかどうか。自分の成長のために必要だと思うと同時に、学生さんの実験についても、データがなかなか出なくても地道に条件検討してもらおうかな、と改めて思った次第です。

さて、次の執筆者ですが、島根大学生物資源学科地域環境学科生物環境化学研究室の鈴木美成先生をお願いいたしました。鈴木美成先生と私は、所属大学は異なりましたが、お互い大学院生だった頃に一緒に実験をした期間がありました。その後も色々な学会でお会いすることが多く、近況を報告したりしておりましたが、この春、移動に伴いご自身の研究室を構えられたと伺いまして、今後の益々のご活躍を祈念しつつ、このバトンを贈らせていただきました。お忙しい時期にもかかわらずお受け取りいただきありがとうございます。

〔昭和薬科大学 阿南弥寿美〕